

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990200172		
法人名	株式会社 ケアフォレスト		
事業所名	グループホームひなたの広場		
所在地	栃木県足利市五十部町490-1		
自己評価作成日	平成24年1月9日	評価結果市町村受理日	平成24年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成24年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所してから10カ月が経ち、地域の方にはだいぶ認知されてきたと思います。今後はさらに地域に溶け込み、関わりを深めていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは市中心部に近く、西部郊外の住宅密集地にあり、小規模多機能居宅介護施設が隣接されている。市内には当法人の事業所が5か所あり、「明るく開放的で家庭的な雰囲気を大切に思い思いに過ごして頂くこと」という理念のもとに、運営している。ホームは自治会に加入し、地域の一員として夏祭りや清掃活動などの行事には積極的に参加して交流に努めている。管理者は毎月の職員会議でホームの理念、身体拘束をしないケアやプライバシーの考慮、敬語を使った言葉遣いとソフトな言葉掛けを実践することなどを職員に指導している。食事は職員が献立を考え、1週間交替で利用者の状態に沿った食事を作っている。さらに、外食や市内の公園等への外出を毎日行い、利用者の楽しみの一つとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気大切に、利用者一人一人が楽しく、その人らしい生活を送れるような介護を心がけ実践している。	利用者一人ひとりがその人らしい生活を送れる旨の理念を管理者が作成した。理念の掲示はしていないが、その都度職員にこの考え方を伝え、実践に繋げている。また、ホームのパンフレットに記載した「より元気に！より楽しく！より朗らかに！」の趣旨も職員に徹底させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会に加入をしている。また、町内の行事には積極的に参加をしている。	自治会に加入し、町内の夏祭り、側溝やゴミ置き場の掃除に参加している。また、隣接の公民館へ利用者の習字やはり絵などの作品を展示して貰っている。近所の人が柿を持って来てくれるなどの交流もある。	回覧板等を活用して地域の人にホーム行事への参加を呼びかけたり、公民館に当ホームの資料を置かせてもらうなど、ホームの啓発に努めていくことに期待したい。また、地域の人たちを対象とした認知症に関する講演会などの企画も今後は期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域、家族の方から相談を受けた場合、助言をしている。また、見学会等の時に説明や助言をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業報告や今後の予定を話し合い、参加者から意見があれば今後のケアに行かせるよう取り組んでいる。	運営推進会議は、自治会長・民生委員・利用者代表・家族代表・市職員等の参加により2か月に1回併設の小規模多機能居宅介護と合同で開催している。事業報告を行うとともに家族からの意見により施設一覧を作成するなど要望等を聞いている。	今後、高齢者に対する交通事故や避難訓練の方法などの議題で開催の際は、参加者を固定しないで警察署や消防署の職員を招くなどの検討を行うことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を生かしての情報交換を行っている。わからない事があった時は、いつでも市担当者と相談するようにしている。	運営推進会議に市職員に参加して貰い、情報交換をとおしてホームの状況を把握してもらっている。また、申請更新時に相談にのってもらうなど十分連携はとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないよう心掛けた介護をしている。	月1回開催している職員会議で管理者は身体拘束をしないケアについて話している。言葉遣いは敬語を使い、強い口調で話さない、子供扱いはしないなど、ソフトな言葉掛けに取り組んでいる。開所時には徘徊があったがドライブなどを実施して落ち着きを取り戻している利用者もおり、個々に沿ったケアを提供している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴、着脱時などボディチェックを行い、日々の利用者の状態を把握し、もし虐待があるようならすぐに気付けるよう取り組んでいる。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に権利擁護に関する学ぶ機会は設けていない。必要に応じて、NPO法人財産管理支援センターフォレストよりアドバイスを受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧に説明し、本人・家族に納得してもらうよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の時に家族と意見交換をしている。また、家族が面会に来た時には、意見・要望を聴くようにしている。	運営推進会議や面会時に家族からの率直な意見・要望を聴くようにしている。聞き取った意見や要望を参考に、面会簿作成や本人の希望に応じた食事量にするなど、その都度運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議の時に意見を聴き、運営に反映させている。	職員会議は毎月10日前後に開催している。職員からは議題の提案や、日々のケアに利用する備品購入の要望などを出してもらい、それらの意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務実績等を把握して業務評価表を基に賞与等に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規職員は初めのうち他の職員と組んで業務にあたるよう取り組んでいる。また、施設内、外の研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じグループ内の施設で研修会や交流会等を行っている。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の事前訪問時に、本人の意思、思い等を聴いて不安を和らげ、安心して利用してもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時、家族の困っている事、不安な事等よく聴き、適切に助言ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族にどんなニーズがありどのような支援が必要か見極め、その人に合ったサービス利用を支援できるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や、食器拭き等できる利用者には手伝ってもらい、日常生活に役割を持ってもらうように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その時の利用者の状態に応じて適時話し合う機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との連絡を密にするよう努めている。また、馴染みの店や場所に行けるよう努めている。	契約時に家族から生活暦を聴き、住んでいた所や馴染みの場所への訪問を行う他に、誕生日には希望する場所や店に行くなどの支援に努めている。友人には継続して訪問してもらっている。また、月1回美容師に散髪に来てもらい顔なじみになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の個性、相性などを把握し、お互い支え合う事ができるよう支援している。また、利用者同士が話をしやすいよう場所や席を移動する等工夫をしている。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了した利用者についても、相談などあるようなら支援するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人のニーズを把握し、利用者本位の介護を心がけている。	日々の生活の関わりや表情から一人ひとりの思いを把握して、希望に沿ったレクリエーションを提供している。また、職員のギター演奏で歌う利用者もいるなど、本人本位に心がけた支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査の時に生活歴をきいている。また、利用者との日々の関わりの中で、話を聴くよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムを把握するよう心掛けている。また、自分でできる事、できないことを把握し、自立支援の介護を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聴きケアプランに反映させるようにしている。	入居時に生活歴や家族の希望(自由な暮らしができるように)を聞き、それらを参考にしながら介護計画を作成している。また、6か月に1回、一人ひとりの生活状態を勘案した介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録表、業務日誌などに日々の様子を記入している。職員はそれを自由に見る事ができ、情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状におけるニーズの把握に努め臨機応変の対応ができるよう心掛けている。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公民館で行事がある時には参加をしている。昨年は公民館の文化祭に作品を出品している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの主治医との関係性を大切にしている。本人、家族の希望があれば施設協力医の往診を受けている。	かかりつけ医は基本的に家族等の意向を尊重しているが、月1回協力医の往診がある事から変更する利用者が多くなっている。通院は基本的に家族にお願いしているが、必要に応じて職員が同行し、利用者の日常生活等の情報を主治医に伝え、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師は配置していない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な時は、施設協力医と相談し決定している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に十分に説明し理解を得ている。現実的にターミナルケアが必要になった場合は家族、医療機関、施設でよく話し合い、対応していこうと考えている。	利用開始前に、看護師が配置されていないことから医療的な処置ができないこと、退所の際に適切な施設の紹介をすることなどを、家族に説明している。ターミナルケアの必要性は感じているので、今後の方向性について検討している。	利用者のさらなる高齢化などを視野に入れて、協力医や職員と相談しながら、利用者の重度化や終末期にむけた対応に関するマニュアル作成や、ホームとして中長期的な計画を検討することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については定例会議の時に話をしている。また、グループ内の研修で心肺蘇生法の研修を行う等、勉強の機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会いのもと、年2回避難訓練を実施している。	消防署立会いの下、年2回の避難訓練を実施しているが、夜間想定訓練はしていない。夜間の緊急連絡は、最初に管理者に伝えられ、近くに住む職員により迅速に対応できる体制になっている。なお、水や食糧の備蓄は現時点では行っていない。	今後、消防署の指導のもとで実施する夜間想定避難訓練や、避難訓練時に地域の人たちに声かけ・見学してもらうなどを期待したい。また、水や食糧の備蓄を早急に検討することを期待したい。

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いの介護にならないよう言葉遣いには注意をしている。利用者には敬意を持ち対応するとともに敬語を使用するよう心掛けている。言葉かけにおいてもプライバシーを考慮した言葉かけを心がけている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し言葉遣いには十分注意して敬語で対応しており、「さん」付けで呼んでいる。また、トイレなどの誘導はプライバシーを考慮し、さり気ない声かけで行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションを重視し、信頼関係を確立するよう努めている。そうする事によって、利用者の思いを把握しやすくなり、理解できてくると考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく利用者のペースに合わせた介護を心がけている。また、利用者の希望があるようならそれに沿えるよう支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は利用者と相談し、希望する服を身に着けてもらっている。月に1回は訪問の散髪があり、希望者はかかっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、配膳の仕方等、おいしく食べられるよう工夫している。準備・片付け等手伝ってくれる利用者はやってもらうようにしている。	献立作成と食事の準備は職員が一週間交替で行い、利用者の状態に応じた工夫をしている。職員も一緒に食事を摂りながら会話を楽しむ支援をしている。また、誕生日の外食も楽しみの一つとなっている。なお、利用者は食前食後のテーブルや食器拭きなどを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表を記録し利用者の状態を把握している。また、週1回体重チェックを行っている。変化があるようならその都度適切な対応をしている。食事形態は利用者の身体状況に合わせて食べやすいよう支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。なるべく自分で行えるよう支援している。できない所は介助にて行っている。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、排泄パターンを把握している。基本的には2時間に1回はトイレ誘導するようにしている。	職員は一人ひとりの排泄パターンを把握しており、訴えない人は2時間に1回の声かけ誘導を行っている。また、行動パターンを察知してさり気ない誘導によりトイレでの排泄と自立に繋げている。夜間はパット交換とトイレに来る人が重なる事が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く取ってもらったり、腹部マッサージ、運動等してもらったりと、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、利用者の要望、状態によっては臨機応変に対応している。入浴中は会話をすることを心がけ、楽しく入浴してもらうよう努めている。	開所時は夕方入浴希望者がおり、支援していた。現在は、月～土の午後に人数を分けて支援しているが、柔軟に対応している。拒否の強い方には翌日の入浴を促すなど、臨機応変に対応している。また、季節感も考慮しながら柚子湯等を活用し、入浴が楽しみなものになるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活パターンを把握したうえで、各利用者に合った対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬を職員は把握し、理解するよう努めている。服薬介助時には誤薬がないよう名前など確認を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を参考にし、その人に合ったレクリエーションや役割を持ってもらい充実した生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食、外出行事を企画する、天気の良い日は近所を散歩する、地域の行事に参加する等なるべく外に出かけられるよう支援している。	月に1回ずつ外食や外出を実施している。誕生日には外食に出かけ、季節に応じて初詣や節分祭・フラワーパークに出かけるなど、外出を楽しむとともに地域の行事にも参加している。天気の良い日には敷地内の散歩や近所に出かける支援もしている。	

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金を預かっており、買い物や外出などの時にそこから支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より希望があれば適時対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は季節に合った飾りつけをしている。その他は、季節の花など飾っている。共用空間は清潔保持を心がけている。臭い対策として、消臭剤、空気清浄器等設置している。施設内は過ごしやすい温度に保っている。	共有空間の片隅に畳の間があり、気楽に座ったり休むことが出来る。畳の間から入る日差しが、広いリビングをより明るくしている。不快な臭いや音もなく、切り絵や折り紙の額が飾られ、利用者同士が雑誌や新聞を見ながら語らっている様子がうかがえた。室内からは菜園も眺められ、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が思い思いに好きな場所で過ごせるように椅子や机を移動するなど工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ってきてもらうなど、自宅と同じような雰囲気づくりをし、居心地の良い暮らしができるように支援している。	エアコン・ベッド・タンスはホームの備え付けである。利用者は馴染みの物である仏壇や位牌・テレビなどを持ち込んでおり、自宅に居る時と変わらない生活ができるよう、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、畳部屋、浴槽には手すりをつけている。施設内はバリアフリーである。職員は利用者の見守りを常に行い、事故防止に努めている。		